

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/1階ユニット、2階ユニット)

事業所番号	2790300350		
法人名	特定非営利活動法人 ベルビー		
事業所名	ボンビー		
所在地	大阪府寝屋川市木屋町6-16		
自己評価作成日	令和4年11月17日	評価結果市町村受理日	令和5年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に安心して暮らして頂ける終の住み処を目指している 家族様にボンビーで生活をして良かったと思ってもらえる対応を目指している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎える当事業所は、最寄り駅から徒歩15分の住宅街にあり近隣にはスーパーや国道沿いに多くの路面店がある。母体のNPO法人ベルビー(本部・枚方市)はグループ法人の(株)ケアライフと給食サービス・研修などで密接な連携を保ちながら介護タクシー・デイサービス・訪問介護などの地域密着型事業を枚方・交野・寝屋川地域で展開している。笑顔いっぱい管理者は明るくざっばらん人柄で家族や利用者・職員に親しまれている。非常勤職員の割合が多いが申し送りノートや毎週のミーティングを重要視し情報の共有を図っている。コロナ禍により制約の多い中、利用者の為に毎日の日光浴は欠かさず、家族との外出や外泊、知人との面会にも柔軟な対応を行っている。様々な工夫を出し合い、理念に沿って「安心して暮らせる家庭的な環境のもと、心を込めたサービスを提供できる」様に日々努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果 【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に応じた暮らしをして貰えるように、理念をふまえた実践を共有している	職員間で話し合い作成した理念「明るく穏やかで安心して暮らせる家庭的な環境を目指します。利用者の個性を大事に、心を込めたサービスを提供します。地域に信頼され、ふれあいの場をもてる施設を目指します。」を常に意識し日々の支援に活している。今後はパンフレットやホームページに掲載し外部への周知を図る予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流や木屋冬まつりにはコロナ禍で自粛している	自治会に加入している。コロナ禍3年目となり、地区の祭りは中止が続きボランティアや地域住民との交流は停滞したままであるが、コロナ収束後をみすえ社協へ新たなボランティア(レクレーションや清掃)の相談をし現在返事待ちである。隣接する保育園との以前のような交流の復活を心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院から退院の相談やみんなの介護の相談を受け事業所の力を活かしている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を活かしポンビーの報告を(コロナ禍につき)包括にFAXにて取り組んでいる	コロナ禍により行政の許可を得て、書面での開催を続けている。事前に運営状況の報告を地域包括支援センターにFAXし意見を募っている。地域住民代表としての民生委員(従来からの構成員)は欠席が続いている。自治会長への参加要請は開設以来続けているが参加には至っていない。	運営推進会議の重要性を再確認したうえで「地域住民代表(民生委員や自治会長)に資料を送り、積極的に意見を募る。報告資料・議事録の様式を再検討する。公表について家族への配付を再開する。」など会議の活性化の為に積極的な取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護利用者の入居を受ける事により保護課との連携を取っている	地域包括支援センターとは運営推進会議で連絡を取り合っている。寝屋川市の高齢介護室や保護課とはコロナ関連の支給を受けたり相談・報告など密接な交流がある。家族の依頼で諸手続を代行し、諸手続の申請などで管理者やケアマネジャーも市の窓口を訪問することは多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアに取り組んでいるが、玄関の施錠は開錠していない	身体拘束関連の指針、議事録や研修記録などの関連書類や職員への資料は、ファイル1冊にまとめる予定である。現在は身体拘束の事例はない。玄関は安全のため施錠している。帰宅願望の強い利用者には様子をみながら話しかけたり、1階の玄関先に降りてゴミ出しに同行してもらうなどで気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止を全スタッフで周知して防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度を学ぶ機会を持っていないが、現在成年後見制度の対象の利用者はおられない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時までご相談や説明を重ねて契約につないでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と家族の要望や意見があれば家族会議の場を設けている	意思表示が困難な利用者が殆どであるため、家族から要望や意向を出される事が多い。コロナ禍緩和期にはガラス越し面会を許可している。連絡手段は電話が主だが、誕生日の様子を管理者が書いて写真入りのお便りとして送っている。オンライン面会や月ごとの個別情報を期待する家族のアンケート意見もある。	家族は感染対策のため長期にわたり館内に入れず、日常の暮らしが分からない状況が続いている。家族の不安解消の為に「運営推進会議の議事録の配付」や「ブログ更新」に加え毎月個別の「お便り」で様子を報告するなどの取組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティングを設け会社に報告し、その後スタッフ全員に意見の結果を報告している	管理者の明るい人柄から意見を言いやすい職場環境である。気づきや改善案は「申し送りノート」に各職員が書き込み、細かい提案が出されている。担当が中心となり月間目標(6項目:食事・排泄・育成他)を立て、本部へ提出・見直し(達成度を分析)を行っている。記録帳票に関してやコロナ感染対策の消毒方法などに改善案が反映した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に第一研修接遇マナー、第二研修身体介護の取り組みを受けて貰っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会に参加して情報共有していたが、コロナ禍で自粛している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くために、コミュニケーションを取り早く安心してもらえる努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に電話をかけコミュニケーションを取り、誕生日会の報告を書面で送り信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期サービスの段階で必要なサービスを見極め家族との相談の上、サービスを導入している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は同じことが出来るならば、一緒に手伝ってもらいADL低下を防いでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が不穏になられたときは、家族の声を聴いてもらいお互い安心されるように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が以前勤めていた職場の方が訪ねて来られるようになり、お互いに喜んでおられます	電話や手紙の取り次ぎなど関係継続のための支援を続けているが、コロナの非常事態(赤信号)期間を除き、昔からの知人の訪問を歓迎し玄関先のベンチでの面会をしてもらったり、自宅への定期的な外泊(毎週～隔週)を認めるなど柔軟な取組みを法人許可のもと再開している。いずれも感染症対策には十分に留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	長い期間男性利用者がおられませんでした が、利用されるようになりましたので孤立しない様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族や本人の経過をフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いをふまえて困ったことは無いか確認して暮らしてもらっている	入居時に得た利用者の意向や情報は事業所独自のコンタクトレポートにまとめ、把握困難な人は、家族に聞いたり、本人の表情・仕草などから察するようにしている。特に入浴時はリラックスでき一対一になれるためか日頃は言葉が出ない利用者であっても「寂しいんや」などの本音が突然聞ける場面がある。把握した情報は、記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者がどのような生活をされていたかを把握してサービスに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	帰宅願望が出ないように集中できるレクリエーションなどを行い過ぎて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族会議を行い介護計画を作成しケアを行っている	定期的(週1回)な職員ミーティングでモニタリングを行っている。入居時の暫定介護計画は半年で見直している。医師・看護師・職員などからの情報や本人・家族の意向を反映した上で短期目標半年・長期一年の介護計画を作成しているが、状態に変化があれば、即対応し話し合いの上、新たに計画を見直し、常に現状にあった支援が行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表や個人記録を活用し職員間の情報共有して介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族の状況を把握しながら一人ひとりの支援やサービスに取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりのQOLを踏まえ豊かな暮らしをしてもらえるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3か所の往診医を紹介してかかりつけ医を決めて貰い適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ほぼ全員の利用者・家族が納得したクリニックをかかりつけ医としているケースのほか、従来のかかりつけ医を入居後も引き継いでいるケースがあり、現在3ヶ所の医療機関から訪問診療(月2回ないし1回)を受けている。看護師も3ヶ所から受け入れており、アンケートからは家族が医療面で利用者の安心感を得ていることが窺われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師はいないが、1週間に1回の訪問看護での連携により適切な支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隔週の往診時に信頼関係を築き情報共有して早期に退院できるように関係づくりをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針により家族との協議をし、チームでの支援に取り組んでいる	入居時に本人と家族に事業所での重度化や終末期における指針を説明し、同意書を得ている。コロナ禍にあって看取り介護も様々なケースが考えられ、現在事業所では管理者が中心となりチームによる看取り介護の受け入れと自身の経験から看取り時の心構えや対応につき、職員に伝えている。開設以来約5年間に、直近を含め2件の実例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフに初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、水害時の総合訓練を行い2階への避難を行った	最大関心災害は、一級河川に近いことから水害とのことで、2階への垂直避難または近隣小学校への避難を想定し訓練している。消防自主訓練は、今年度既に2回実施済みで、適切な報告書も確認できた。今後の訓練には、実際に消防署の立会いを依頼し、夜間に2階利用者の避難方法につき、適切なアドバイスを受けることを勧めたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声掛けのタイミングを見計らい対応をしている	利用者のプライバシー確保のため、職員は接遇やプライバシーに関する法人からの動画研修を受講し、レポートを提出することで研修の実効性を高めている。トイレへの誘導は、周りの利用者に分かれぬようさりげなく声掛けし、トイレではドアの外からの見守りを基本としている。トイレ・浴室では、ドアを閉め外部から見えないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は思いや希望を決定できる方が多いので声掛けして思いを聞き出している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、入浴日にはご自身の体調を確認している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員側が決めるのではなく、ご自身で選んで貰う支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の出来る方には手伝ってもらい、片付け(食器洗い)はご自身からして下さる時は手伝ってもらっている	グループの配食部門から容器入り調理済み食品が毎食毎に届けられ、台所で手作りの味噌汁を添え利用者一人ひとりに合わせた配膳をしている。正月のおせち料理やイベント料理も届けられる。独自でお好み焼きを手作りしたり、近隣からお寿司を取り寄せたり、利用者が食事を楽しめる工夫も行っている。利用者が食器洗いに参加することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量に応じて摂取して貰い、その方に応じた食事量にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、必ず口腔ケアのチェックをしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声掛けを行いますが、その方の羞恥心を大事にしている	トイレへの誘導支援を含め、約7割の利用者が一人でトイレでの排泄ができています。昼夜を問わず、リハビリパンツ(パッドを併用)で過ごすことができる利用者も多く、布パンツは1人、おむつ使用は昼夜とも1~2人と少ない。夜間は、巡回により利用者一人ひとりに合わせ、トイレへの誘導や睡眠を重視したパッド等の交換を行うなど支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防は慢性便秘症の利用者には往診医からの処方により便秘薬を処方してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日を決定しているが、利用者の希望も確認している	各フロアに、個浴槽と機械浴槽が設置され、浴槽を跨げる利用者の2人介助を含め約半数が個浴槽を、残り半数が機械浴槽を利用している。利用者の希望日、当日の体調や拒否の有無と職員のシフトに合わせ、週2回の入浴に努めている。入浴時には入浴剤の使用や季節湯は用意していないが、利用者が入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後にベッドでに休みたい方がおられるので声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬の把握をして眠剤などの服薬で変化を確認して睡眠して貰える支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症であっても面白い時は笑いが出るので大いに笑い喜びのある1日を過ごしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との通院後の食事やランチ出かけられたり一時帰宅を支援している 季節に応じ車窓からではあるが花見ドライブに出かけている	コロナの非常事態(赤信号)期間を除き、事業所では法人の許可を得て、家族による利用者との外出も会食も含め柔軟に実施している、週末または年末年始の一時帰宅も、同様に柔軟に対応している。今年も、ドライブによる車窓からの花見も楽しんだ。日常も天候の良い日には、玄関先での外気浴、駐車場や近隣の散歩を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は持って貰えないが(預かり)財布が必要な方には小銭を入れて持って貰っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	おさな馴染みの方への手紙を書かれる方には投函を頼まれたり、固定電話からつないでお話をして貰っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁面飾りをしたり、コロナ禍での換気が必要で有りますが、夕方には温度が下がってくるので閉めるように配慮している	木造2階建てで、フローリングや壁の一部に木材を多用した温かい内装で、職員の優しさや併せ事業所の特徴となっている。共用部には絵画や季節の飾りが上品に配置され、落ち着いた空間となっている。食堂・居間は床暖房で気持ちよく過ごせる環境となっており、コロナ禍で換気や手が触れるところの消毒など安全・安心にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様でのテレビの視聴をソファで提供できるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は施設の物でいいのか確認して、使いなれた寝具が有れば持ち込んで貰っている	居室には、予め介護用電動ベッド、備付クローゼット、チェスト(整理ダンス)、洗面、エアコン、防災カーテンや照明が設置されている。利用者は馴染みの写真、小物の飾りや制作したクラフトを飾っている。中には壁一面に制作した作品、動物の写真や玄関先で摘んだ花などを飾り、上品で居心地の良い自分の城を創っているのが観察された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩の方が多く、トイレの場所の把握ができない方が多く、場所がすぐに把握できるように工夫をしている		